



新春のご挨拶



副市長、教育長、市立病院長から市民の皆様へ、
「2023年の抱負」を申し上げます。

副市長 井上 昇

昨年は、長期化している新型コロナウイルスの感染拡大防止と経済活動の両立が課題となっていました。本市では、市内事業者の皆様を対象とした取り組みとして、クーポン券発行や給付金の支給、中小企業診断士による経営相談を行う事業などを実施し、事業者の皆様を支援することで地域経済の活性化と市民生活の向上に努めてまいりました。



コロナの終息が見えない中、市民の皆様におかれましては不安を感じる日々をお過ごしであると思います。今年も引き続き、皆様の安心・安全な生活のため、スピード感をもって各施策に取り組んでまいります。

副市長 小山洋市

昨年は、新型コロナウイルスへの対応で油断できない状況は変わりませんでした。中止されていた事業が再開されるなど、徐々に落ち着きを取り戻してきた一年でした。



しかし、コロナ禍で、外出の機会が減っているかたも多くいらっしゃるかと存じます。本市では、さまざまな学びをきっかけに、自宅にこもりがちなかたの外出意欲を高め、交流機会を創出する「月イチ学園祭」を開催しております。ぜひ足をお運びください。

市民の皆様にも心身ともに健康な一年を過ごしていただけるよう、各種事業を着実に進めてまいります。

教育長 柿本隆夫

小・中学校では、ノートPCの一人一台導入をきっかけとして「学び」が大きく変わり始めています。「個別最適化」と「協働的な学び」がその合言葉です。PCを活用することで、一人でも、また誰とでも、自分に合った学習が可能となりました。教室で、家庭で、学びは進化していきます。



一方、学校に登校できない子どもたちは増えており、社会問題にもなっています。本市では昨年4月、登校を前提としない不登校特例校分教室を開設しました。ここでの成果を周知し、各学校での取り組みの質の向上を図ってまいります。

市立病院長 矢尾正祐

新型コロナウイルス感染症も3年目に突入しました。まだ収束には至っていませんが、この間にウイルス自体も、そして私たちの免疫力や生活パターンなどもかなり変わりました。対処法なども自然と身に着いて、気がつけば新しい形の日常を作りつつあるのではと思います。



市立病院でもコロナ対応から学んだ多くのノウハウを生かしつつ、ウイズコロナ・アフターコロナという新しいステージに一步踏み出し、急性期病院として地域医療を守り、皆さんの健康を支えてまいります。引き続きよろしくお願ひいたします。